

サンレモだより

H30年度 第2号



(編集)

医療法人 佐世保同仁会
サン・レモリハビリ病院 広報部
佐世保市江上町4848-1
☎ (0956) 58-5900

<http://www.sasebo-doujinkai.com/sanremo/>



認知症について

広報部一同

認知症とは？

おもに認知機能の低下により、一人暮らしが困難な程度にまで社会的生活力(生活管理能力)が低下した状態をいいます。



認知症の主な症状

中核症状・・・物忘れなどの**記憶障害**。

時間や場所および人物などの状況が分からなくなる**見当識障害**。

作業の段どりがうまくできないなどの**判断力低下**。など

周辺症状・・・その人の性格や生い立ち、職歴が影響して出現する**行動心理症状**があります。妄想や、怒りっぽくなること、徘徊、暴言・暴力、不安などが挙げられます。

徘徊はなぜおこる？

本人にとっては目的がある行動。例えば、何かを探していたり、どこかに行かねばならない用事があります。

→行方不明や事故に巻きこまれる可能性をはらんでいるため、最近では地域レベルでいろんな対策がなされています。

主な原因 記憶力低下や居場所が分からなくなることにより起因する**大きな不安やストレス**があげられます。

■何しに来たんだっけ？

→行動開始時には存在した目的を、記憶障害があつて忘れてしまうことにより、目的が分からなくなって徘徊してしまいます。

■ここはどこ？

→自分の居場所(居住地等)が分からなくなることがあり、不安が強くなってあちこち歩き回ります。

■どうやって帰ればいいのか？

→迷子になったとき判断力低下をきたしてしまい、対処の仕方(地図を見る、交番に聞く等)を思いつかず、わからなくなってしまうことがあります。

徘徊が起こってしまったら・・・？

- ① 怒らずに、本人へその理由を聞いてみましょう。
- ② 無理にその行動を止めないで、しばらく付き合ってみましょう。
- ③ 警察に通報して、保護を仰ぎましょう。



予防対策

- ①屋内の場合、トイレに工夫を。
…トイレの位置をわかりやすく知らせましょう。
- ②家の鍵を、手の届かないところへしまいましょう。
- ③屋外の場合、一緒に歩きましょう。
- ④住所・名前を身に付けておきましょう。
- ⑤デイサービス・自治体サービスの利用をしましょう。
- ⑥家族が気持ちを切り替える(受容する、怒らない)ことも大切な事です。
(⑦やむを得ない場合、行動制限をする場合があります。)



徘徊予防グッズ

①センサー

「ラムロックアイズ(株式会社ラムロック)」など。

→認知症老人徘徊感知機器。検知すると、スピーカーから家族の声で呼び止めます。

更に、室内にいる家族や近隣への通知も可能なため、一緒にいられないときも見守ることが出来ます。

②GPS

「ドコモGPS」、「みまもりGPS」「まもるっく」「ココセコム(株式会社セコム)」

「GP シューズ」「見守りシューズ」など。

→GPS 付きの器具やシューズを身に付けてもらうことで、出て行ってしまった認知症の方の行方をパソコンや携帯端末で探すことができます。

③QR コード

「爪シール」「キーホルダー」「アイロンプリント」の形で、身に付けておくものです。

→徘徊の恐れがある方を対象に、あらかじめ自治体のネットワークに登録してQR コードを取得する。QR コードを読み込むと、連絡先として市や県警の電話番号が表示され、コードの下に記載されている整理番号で身元が特定できます。

※一部の地域では運用されているので、まずは各自治体に問い合わせが必要です。

認知症に関することの問い合わせ

○各地域の「地域包括支援センター」

○「長崎県認知症サポートセンター」

<参考資料>

・徘徊e-65.net

・認知症ねっと

・山口晴保 著「認知症予防」協同医書出版社



高齢者ケア①

～ケアなのに、身体拘束って…？～

身体拘束廃止委員会

はじめに

当院において入院加療されている患者様の大半は高齢の方が占めています。体力の著しい低下や意識障害によって寝たきりの方もおられます。治療の一環として、経管栄養や輸液および導尿を行う場合があるのですが、認知機能の低下や意識障害によって無意識的にそれらの器具類に手足が触れてしまうと、十分な治療効果を期待できないことがあります。

当院では、原則として身体拘束禁止を掲げていますが、やむを得ない場合、皆様に十分な説明・同意を講じて、ご理解いただきますようお願い申し上げます。そして、身体拘束廃止委員会において、日々の患者様のケアに関して「身体拘束ゼロ」をめざして、さまざまな活動を行っています。

今回は「身体拘束」について、正しくご理解を賜るため、紹介してみたいと思います。

1. 身体拘束とは

身体拘束は、患者様の生活の自由を制限することであり、患者様の尊厳ある生活を阻むものです。

<身体抑制現状調査>

調査時期(H30年度)		4月	5月	6月	7月
抑 制	T字型拘束帯	2	4	4	3
	つなぎ	6	6	4	1
	ミトン	24	26	29	27
	ベッド4点柵	6	9	8	9
	柵固定	0	0	0	0
計(延べ人数)		38	45	47	40
抑制人数(%)※		32(10.3)	36(11.6)	38(12.2)	34(10.9)

※身体拘束をしている方の院内310名の割合

2. 身体拘束廃止に関する考え方

当病院では、患者様の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく職員一人一人が身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に努めます。

～緊急やむを得ない場合の例外3 原則～

①切迫性：患者様本人または他の患者様等の生命または身体が危険にさらされる可能性が著しく高い事。

②非代替性：身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がない事

③一時性：身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること。

※身体拘束を行う場合には、以上の3つの要件を満たすことが必要です。

主治医の許可と、御家族の同意をいただくようにしております。



3. 身体拘束に使用する物の一例と代替策



①安全ベルト(T字型拘束帯)

おもに車椅子座位保持時に使用。立ち上がったたりして転倒防止のため。

代替策・・・両太ももの下に厚みのあるクッションを置いて、立ち上がるには難しい姿勢にすることにより、立ち上がり・転倒を防止します。



②ベッド柵の固定(ベッド4点柵および柵固定)

就寝中にもかかわらず起き上がり、ベッド柵を越えて転落する危険度の高い方に対して、ベッド柵を3~4つ使用し、場合によっては紐で固定し、外れないようにします。

代替策・・・転落しても最小限の体への衝撃で済むように、ベッドの高さを一番低く設定、床にマットを敷いて対応します。



③ミトン

胃瘻および経鼻経管栄養(マーゲンチューブ)からの経腸中や、点滴中にもかかわらず、四肢を活発に動かして自己抜去する危険度の高い方に使用します。

代替案・・・点滴架台や経腸の管を、直接本人の視覚に入らないようにして、注意がそちらに向かないようにしています。



④拘束衣(つなぎ)

おむついじり等不潔行為の防止のため。

代替案・・・全身状態を観察し、早めのおむつ交換等を行い、対応しています。



⑤センサーマット・センサークリップ(イラスト)

おもに認知症等で徘徊癖のある方に対応。身体がベッドから離れる瞬間にスタッフ対応する為に使用します。

代替案・・・声掛けおよび行動を共にすることで不安をなくし、安心して過ごす事が出来るような環境づくりに努めています。

最後に

私たちは患者様の治療に携わり、生活の質(QOL)を向上させるため、日々努力してまいります。また、個々人にしっかり対応できるような新しいナースコールの導入を検討中です。





病棟紹介 D病棟



平成 30 年 4 月 1 日より佐世保同仁会病院の建て替えの為、サン・レモリハビリ病院の中庭にD病棟（50 床）を建て、患者様およびスタッフ一同お世話になっております。移転の際は、サン・レモ職員の皆様の多大なご協力により、何事もなく無事に終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

齊藤院長はじめ、総勢 65 名の職員がサン・レモリハビリ病院の仲間入りを致しました。移転当初は、病棟スタッフ一同模索しながら、無我夢中で業務をこなしてきました。患者様も環境の変化に戸惑いもあり、大変ご迷惑をおかけしました。残念なことに、サン・レモからの素晴らしい景色がD病棟から見えないのがとても心苦しいのですが、そのマイナス面を療養生活で満足していただけるように努力したいと思っています。

ようやく環境にも慣れ、業務もスムーズに行えるようになり、ほっとひと安心しております。新病院が完成するまでサン・レモリハビリ病院の職員として頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。



(旧) 佐世保同仁会病院



この広い中庭いっぱいD病棟が建ちました！



リハビリスタッフです。

サン・レモリハビリ病院の1階奥にあるリハビリ科にてみんな一緒に頑張っています。



新人スタッフ紹介 ～4月から5月～



通所リハビリ
ケアスタッフ

すえたけ まりこ
末竹 麻里子



施設課
施設管理スタッフ

こじま たかふみ
小島 貴史



3階
ケアスタッフ

はっとり あやこ
服部 亜矢子



給食課
管理栄養士

のした ともみ
野下 智美



3階
看護スタッフ

まつなが あつみ
松永 厚美



通所リハビリより～報告～

第15回 長崎ねんりんピック 生きがい作品展で、通所リハビリを利用されている高瀬芳江さん(98歳)のきめ込みパッチワークの作品が奨励賞を受賞されました。作品は5月31日(木)～6月3日(日)まで長崎市にある長崎県美術館 県民ギャラリーにて展示されました(作品名『和の彩 吉祥花』)
6月7日に改めて理事長の手から賞状とリハビリスタッフからの花束を贈呈されました。

～ご本人コメント～

「作品作りはリハビリとしてはじめ、完成が楽しみで生きる希望が出て、これからはいろいろな事をやってみたいと思います」



お知らせ

職員募集

サン・レモリハビリ病院のスタッフ(看護職員・介護職員)を随時募集しております。
詳しくは、当院までお尋ねください。

事務部

忘れ物コーナー

忘れ物のコーナーを2階受付に設置しています。
お心当たりのある方は、受付のスタッフにお尋ねください。

医事受付



～地域連携室より～

入院費などの経済的不安など、何かお困りごとがございましたら、
お気軽にお声掛けをお願いします。患者様やご家族様が安心して
療養生活を送れますようお手伝い致します。

地域連携室 山田・辻田・横山



編集後記

今夏は例年になく厳しい暑さで、佐世保市でも35度を超える日
があり、毎日どこかで救急車の行きかう音が聞こえていました。

最近はどこにいても空調管理がなされています。これから秋冬
は空気の乾燥に気を付けて、喉を傷めないようにマスクの着用や
水分およびミネラル補給の心掛けなど健康管理に気を付けま
しょう。

スタッフ一同、これからも皆様の関心ごとをリサーチしながら、
広報活動を継続したいと思います。 広報スタッフ一同



表紙の話「秋の七草」:頭文字を取って、おぼえよう!

オオキナフクハ=大きな服は



オバナ(ススキ)



オミナエシ



キキョウ



ナデシコ



フジバカマ



クズ



ハギ

